

令和6年2月29日

世田谷区立池尻小学校
校長 間宮 英二 様

世田谷区立池尻小学校
学校関係者評価委員会
委員長 田口 康之

令和5年度 学校関係者評価報告書

I 初めに

昨年度に引き続き、池尻小学校の学校運営の改善と発展を目指し、学校評価者において、本校の教育水準の保証と向上を図ることを基本的な考えとし、学校運営委員会全員の共通理解の下で教育活動及びその他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき、学校長へ報告する。

本アンケートの評価については、本校全職員、児童、保護者、地域住民へ向けたアンケートを分析し、考察を行い、本報告書を作成した。

本報告を基に、来年度の学校経営、教育課程、教育活動の改善に資するものにするるとともに、広く保護者や地域の方々に公表し、学校への理解と協力を得られることを願う。

さらに、今年度は学校長より、昨年度の学校評価者評価報告を受けての改善点と指針も提示され、その内容を基に、本校の学校運営、教育活動が展開された旨も報告する。

1 学校関係者等アンケート調査数について

(1) 回答状況

児童	109名	
	5年57名(60名在籍)	6年52名(53名在籍)
保護者	243名	
	1年39名(依頼数54名)	2年32名(依頼数47名)
	3年43名(依頼数58名)	4年46名(依頼数68名)
	5年42名(依頼数60名)	6年41名(依頼数53名)
地域	22名(依頼数49名)	

(2) 回答者数 374名

2 考察方法について

アンケート調査より、

- (1) 肯定的回答の多かった項目
- (2) 否定的回答の多かった項目
- (3) 分からないという回答の多かった項目

以上の3項目に着目し、「児童」「保護者」「地域」から考察した。また、学校経営方針の重点

目標の1及び2並びに3について考察を行った。

II 「前年度（令和4年度）の改善結果及び次年度（令和5年度）に向けた改善方策」に対する評価

令和5年度の児童アンケートの結果から、本校の先生方の授業については概ね肯定的なものが多く、「せたがや探究的な学び」に沿った学習展開が実施されていたと考える。

令和4年度の地域アンケート、「地域の人や施設を教育活動に生かしている」の質問では、否定的な回答が30%を超えていたが、令和5年度は、否定的な回答と「分からない」の答えた割合を合わせても約23%となっており、減少していることが分かった。これは、地域の関係者と連携を取り児童との関わりを増やすと共に多様な視点から授業を行っている結果と考える。また、令和5年度に向けた改善方策として、学校経営の重点目標を「豊かに関わり合い、互いに高め合う児童の育成」に変更し、少しずつ変容が見られはじめてきたと予想できる。

令和4年度、令和5年度と共に児童、保護者アンケートで肯定的評価の少なかったものに「早寝早起き」に関する質問がある。池尻小学校では、全学年の児童を対象に養護教諭が「すこやかタイム」と名付けた保健指導を行っている。このような取組を保護者へ周知し、家庭と連携する必要がある。

自信や意欲につながる自己肯定感や自己有用感を育成するためには、外発的動機付けだけでなく、内発的動機付けが必要である。課題発見や課題解決といった探究的な学習に沿って授業を行い、達成感や成就感を味わわせるために校内研究・研修においても学びを深める必要もある。令和5年度の児童アンケートでは、「私には、よいところがある。」という質問に対して、否定的な回答が19.2%、「分からない」という回答が13.8%という結果であった。教職員だけでなく、保護者や地域の方々がゲストティーチャーとして授業に参加し、児童との接点をもつようにすることも自己肯定感や自己有用感を高めることにつながると考える。

児童と教職員、保護者、地域の方々が様々な場面で豊かに関わり合い、自他の良さや大切さに気付き、思いを伝え合うことができる児童を育成する学校であると期待したい。

III 学校関係者評価結果及び考察について

1 児童（5・6年）アンケート

（1）肯定的回答の多かった項目

- | | | |
|------------------------------------|---------|--------|
| ① 授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。 | 肯定99.1% | 否定0.9% |
| ② 学校行事は楽しい。 | 肯定96.4% | 否定2.8% |
| ③ 先生たちは、丁寧に指導してくれる。 | 肯定96.3% | 否定1.8% |

（2）否定的回答の多かった項目

- | | | |
|--------------------------------|---------|---------|
| ① 私は、早寝早起きをしている。 | 肯定47.7% | 否定50.5% |
| ② 学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。 | 肯定57.8% | 否定27.5% |

- ③ 私は、学校の様子について、家の人とよく話をしている。

肯定 72.5% 否定 26.6%

(3) 「分からない」という回答の多かった項目

- ① 区立中学校に関する情報が提供されている。

肯定 53.2% 否定 15.6% 分からない 31.2%

- ② 学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。

肯定 57.8% 否定 27.5% 分からない 14.7%

- ③ 私には、よいところがある。 肯定 67.0% 否定 19.2% 分からない 13.8%

【考察】

学習について、児童は授業では、課題(めあて)を自ら考えたり友達や仲間と共に考えたりして決め、授業で考えたことを話し合ったり発表し合うなどして学習を深めていることを99%以上の児童が実感できていることから、日々、主体的に充実した学習をしている様子が分かる。「先生たちは、ていねいに指導してくれる」の項目においても、肯定的な回答の割合が高く、先生方の対応が適切であることが推察できる。引き続き、きめ細かいご指導を継続いただきたい。また、「学校行事は楽しい」と肯定的に回答している児童が95%を超えているのは、児童がコロナ禍を過ごし、改めて学校生活を謳歌していることが読み取れ、学校に関係する者として喜ばしく感じる。

区立中学校との交流については、相互の行事にオープンに行き来できる機会が増えるような話題や雰囲気づくり、働き掛けを中学校からも含めた双方で探り、今後は、本校児童と中学生との間で学校生活に関する情報交換が進められることを願う。

高学年になると生活の夜型傾向は顕在だが、質の良い睡眠を確保することは、成長時期にとっても大切である。体育の時間や休み時間を利用して十分に遊びや運動を行うことは、基礎体力を養い健康の保持増進にも役立つことを児童に理解させ、今後も心身ともに豊かな成長を育んでいただきたい。多忙な日常のひと時、家庭でも学校の様子を話題にし、子どもからの話に耳を傾けることにより、児童の心安らかな充実した学校生活に繋がっていくことを保護者にも伝えていただきたい。

一方、「分からない」の回答が多かった項目として、「私には、よいところがある。」という質問がある。自分の理想像に照らしての厳しい自己評価であるのか、謙遜の現れであるのか、他者と比較しての結果であるのか、学校は児童理解に努めながら注視してほしい。

2 保護者アンケート

(1) 肯定的回答の多かった項目

- ① 学校行事は、子どもにとって楽しい。 肯定 97.5% 否定 1.2%
② 家庭では、朝食をきちんと食べさせている。 肯定 97.6% 否定 2.1%
③ 学校行事は、子どもにとって達成感がある。 肯定 97.1% 否定 1.6%

(2) 否定的回答の多かった項目

- ① 家庭では、児童は早寝早起きをしている。 肯定 66.3% 否定 33.7%
- ② 子どもは、家庭で自主的に学習をしている。 肯定 67.5% 否定 32.1%
- ③ 「学び舎」の区立（幼稚園）中学校について情報が提供されている。
肯定 45.9% 否定 29.6%

(3) 「分からない」という回答の多かった項目

- ① 本校は、地域に情報を提供している。
肯定 62.5% 否定 7.1% 分からない 30.4%
- ② 本校は、近隣の（幼）・小・中学校で構成する「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている。
肯定 53.0%、否定 18.4% 分からない 28.8%
- ③ 本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業がある。
肯定 54.2% 否定 17.5% 分からない 28.3%

【考察】

肯定的回答の多かった項目に、「学校行事」に対する質問が2点入っている。このことから、保護者の目から見ても、学校行事が児童にとって学校の生活を魅力あるものに行っている環境づくりとなっていることがよく伺える。また、保護者にとっては行事が学校の様子を見る良い機会になっているとも言える。児童や学校の様子をなかなか見られないため、学校行事を大切にしていくことは重要である。さらに、児童単独の行事においても、日常の授業では習得できない体験が多く含まれていることが伺える。よい機会を大いに活用するためにも、行事の取り組みを学校全体で今後も模索する必要がある。

否定的回答の多かった項目は、「家庭での生活習慣」に対する質問であった。通塾する児童の占める割合が多い本校では、放課後の児童の忙しさも推察される。家庭と学校双方で現状の児童の生活をよく把握し対応していく必要がある。また、学習の定着についても児童の成長発達を含め家庭だけでは成し得ないものである。学校からの宿題、特にタブレット端末の活用の効果が徐々に出ており、昨年度より自宅での活用も図られているようだが、「自主的な」という面では課題が見られた。同学区の中学校の情報提供に関しては、コロナ禍の鎮静化もあり、認知度が昨年度と比較すると上昇している。中学のみならず幼稚園・保育園も含め近隣の教育分野との連携は今後も継続し、さらなる発展につながるよう従来の方法以外の交流・情報提供も含め検討していきたい。

「分からない」という回答の多かった項目の「学び舎」、「地域への情報提供」については、昨年度よりも「分からない」という割合が減少していることに注目したい。コロナ禍の影響も薄れ、徐々に落ち着いた日々を送ることができている。学校の公開、情報の発信・共有など、地域・社会とつながりのある「開かれた学校」にこれまで以上、取り組んでいく必要がある。

近年2年間のアンケート結果において、各項目ともに少しずつだが良い結果、肯定的な回答が占める割合が高くなってきている。成果につなげるには時間が掛かるものの、今までの対応の結果が少しずつ出てきていると考えられる。社会の多様化、児童を取り巻く環境の変化の加速など、保護者にとっても危惧するところが多々あるので、家庭と学校がさらに連携・協力できる体制でいられ

るよう発展し続けることが望ましい。

3 地域アンケート

(1) 肯定的回答の多かった項目

- | | | |
|----------------------------------|----------|---------|
| ① 学校からのお知らせ（学校だより）などにより学校の様子が分かる | 肯定 95.5% | 否定 4.5% |
| ② 通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている。 | 肯定 90.9% | 否定 0% |
| ③ 学校行事の内容は充実している。 | 肯定 90.9% | 否定 0% |
| ④ 学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。 | 肯定 90.9% | 否定 0% |

(2) 否定的回答の多かった項目

- | | | |
|----------------------------|----------|----------|
| ① 「学び舎」の活動について、情報が提供されている。 | 肯定 54.6% | 否定 27.2% |
| ② 本校の児童は、地域の人とあいさつをしている。 | 肯定 45.5% | 否定 27.3% |

(3) 「分からない」という回答が多かった項目

- | | | | |
|------------------------------|----------|----------|-------------|
| ① 学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている。 | 肯定 45.5% | 否定 9.1% | 分からない 45.5% |
| ② 学校公開や道徳地区公開講座などで学校の様子が分かる。 | 肯定 63.6% | 否定 4.5% | 分からない 31.8% |
| ③ 本校の児童は、地域の人にあいさつをしている。 | 肯定 45.5% | 否定 27.3% | 分からない 27.3% |

【考察】

令和5年5月8日（月）に新型コロナの感染症法上の位置付けが5類へ移行し、少しずつ通常の学校運営が実施できるようになった。「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」、「学校行事の内容が充実している」、「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」の項目について肯定的回答が多く、否定的回答が0%であった。この数値は、学校からのお知らせ（学校だよりなど）、学校行事の参観、地域での子ども様子などからの結果であり、「安全・安心で充実した学校運営」がされていること伺える。

「学び舎」の活動については、小・中学校合同で研修会を実施したり、保育園等との交流を行ったりしている。このような取組を、地域の方々に情報共有されていなかったことが、「学び舎の活動について情報提供されている」の否定的回答が多かった理由ではないかと推察される。

また、「学校公開や道徳地区公開講座などで学校の様子が分かる」の質問に対して「分からない」と答えた割合が31.8%と高かったのは、現在の社会情勢を鑑みると地域の方々がこれらの学校行事に参加する時間の確保が困難な面もあると考える。しかしながら、次年度以降、学校公開、道徳地区公開講座の実施後に学校だより等で取組結果の報告を工夫していくことも必要である。今後は、地域の方に各報告を含めた情報発信をさらに進め、学校、地域、保護者がしっかり連携・協力して地域の子もた

ちの育成を図りたい。「本校の児童は地域の人にあいさつをしている」の質問に対して、否定的な回答と「分からない」答えた割合が共に27.3%と高い結果であった。昨今、社会全体で不審者を警戒し、かあいさつをしない子どもが増加している傾向にあるのではないだろうか。まずは、地域や保護者の方々が、自ら積極的に児童にあいさつをするとともに、児童も自らあいさつをし、それぞれの方々と顔見知りになれるよう、一層の生活指導の充実を図る必要がある。あいさつを交わすことで生まれる「地域のゆるやかなつながり」は、児童の見守りや助け合いの土台として「地域に開かれた教育課程」の実現のために必要不可欠であろう。

IV まとめ

アンケート調査から、本年度の本校の学校経営、日々の授業、教育活動（学校行事含）については概ね肯定的な評価を受け、より良い教育活動が展開されている。特に、学校長より、令和4年度の学校評価者評価報告を受けての改善点と指針が明文化され、教職員や保護者、地域の方に周知されたことにより、児童の学びは徐々に向上し、児童は先生方の授業や対応について高い評価をし、教職員—児童の信頼関係の構築に繋がっていると推測される。

一方で、児童、保護者、地域の方々のアンケートを分析・考察する中で潜在化する一定の課題が明らかになった。

- ① 学校の授業、教育活動などについて、保護者、地域の方々の理解度や協力において顕著な差が見受けられた、
- ② 家庭での生活において、早起きなどの改善点が見られるものの、学習においては、児童の中に自主的な活動に差が見受けられた。
- ③ 近隣中学校との交流及び情報の共有について、昨年度から改善は見受けられるものの潜在化した課題も残る。
- ④ 地域への情報提供について、昨年度から改善は見受けられるもののまだ理解・協力への周知には、課題が残る。

以上の項目が今後の改善点であるが、児童のアンケートや全体から推察できることが、児童の実行定款や自己有用感などの自信や意欲に繋がる育成及び、家庭学習や運動に関しても課題あると言える。学校経営や教育活動の中で家庭や地域と更に協力し合い培っていくことが求められる。